岐阜シャツプロジェクト
スピンオフ企画
第1弾「和装」始まる!!

柏屋商事㈱
〒500-8845 岐阜県岐阜市問屋町2-4
呉服部 Tel.058-262-9111
寝具部 Tel.058-262-9131
共 通 Fax.058-262-9113

※映像：製作に携わった仲間とともに撮影。岐阜の伝統技術のこだわりとイナセをストーリーにして伝えています。

日本ならではの和装
× 岐阜シャツの技術

「和紙布」でつくる粋でイナセな岐阜の夏の「正装」誕生!

このたび「岐阜シャツプロジェクト」(以下GSP)の関連商品の第1弾として「岐阜シャツ」のコンセプトを随所に取り入れて作られたオリジナル商品「和装」が誕生しました。手掛けたのはGSPのメンバー 昭和3年創業の呉服問屋 柏屋商事㈱の三代目、武藤昭成さん45歳。岐阜繊維業界の次代を担う若きリーダーです。初のお披露目の場として、2月に東京で開催された展示会「feel NIPPON 春 2017」(日本商工会議所主催)に出品。「岐阜のものづくりのすばらしさを全国に広めていきたい」という、武藤さんにお話を伺いしました。

「ものづくり」にかかわることで、和の文化を広めたい

武藤さんが柏屋商事㈱に入社したのは27歳の時。その当時から若者の和装との距離の遠さを懸念し続けてきました。

何とか着物離れを止めたいと思うなかで、「もっと着易く身近なものにする。もしくは、非日常の特別感を提案していくことが大切だと考えました。そのためには、これまで培ってきた知識や経験を活かし、ものづくりの風上に立たないとその一歩とならないのではないか」といつしか考えるようになり、「いいものを作って提案したい。それが和の文化を広める術になる」と、試行錯誤を重ねてきました。

そのなかで、最初に出会ったのが「抗菌防臭」の技術でした。

「幸運にもまだ世の中に出ていない抗菌防臭加工技術を開発された先生との出会いがありました。話している中でこの技術があれば、もっと快適さを提案できる商品になるとインスピレーションがわきました」

そして約5年間、抗菌防臭効果が持続するタオルや靴下などを開発してきましたが、商品化までには至りませんでした。

そんなものづくりの難しさに悩んでいた頃、GSPへの参画の依頼がありました。

「『岐阜市の基幹産業である繊維業界の活性化を目指す』というこのプロジェクトの取り組みは、いいものを作って和文化の普及を目指したいという私の想いと通ずるところがあり、賛同しました」

そして、当所と繊維事業者5名で組織するGSPによる岐阜シャツの開発がはじまりました。クールビズ用の正装シャツである岐阜シャツにはもちろん武藤さんの手掛けた抗菌防臭技術も施されています。

岐阜シャツのコンセプトとは

先ず挙げられるのは、岐阜シャツのために新たに開発された「和紙糸」を使った生地であることです。この和紙糸の生地は、軽量で通気性に優れ、肌触りがよいのが特徴。

また、生地の開発からデザイン、縫製に至るまでの全工程に地元・岐阜の技術が活かされているところも大きな要素です。

「例えば、わが社のようなものづくりではない企業でも、このコンセプトを活かして『新たなものづくり』ができるのではないかと考えるようになりました」

いつしかそんな想いを抱くようになった武藤さんに、GSPの小林デザイナーをはじめ、メンバーの応援が加わり、今回の「和装」の取り組みがはじまりました。

岐阜の伝統技術 郡上本染で表現する日本ならではの美、「本藍」

手掛ける商品は、クールビズ用の「正装」シャツである岐阜シャツと同じく、和装の夏の「正装」としての「夏着物」と決めました。

素材にはもちろん岐阜シャツの技術で作られた「和紙糸」を使用。そこに「岐阜の伝統技術を加えたい」と考えるなかで「郡上本染」と出会いました。

郡上本染は、岐阜県郡上市八幡町特産の染物。岐阜の伝統工芸の一つで、岐阜県重要無形文化財に指定されています。その技法は江戸時代から400年以上受け継がれ、味わい深い藍色が特徴です。

「元々、ジャパン・ブルーと呼ばれる藍色が好きで、郡上本染のことは知っていましたが、はじめてじっくりと触れて見て、これこそ、価値のある生きたものづくりだと思いました」

武藤さんは、本物を極めた職人の「原料・作業・風土にこだわり、一切の妥協も許さないものづくり」の姿勢に魅了されていきました。

こうして、郡上本染が施された和紙布には「清流長良川の水面」をイメージした柄が織りあげられました。これぞまさしく「Made in 岐阜」の夏着物。新たな「岐阜の逸品」が完成しました。

もう一つ、夏着物に合わせた和装ならではの肌着「襦袢」の開発にも取り組みました。

「例えば、男性は浴衣などを素肌に着る方が多いのですが、快適に着こなすには、襦袢は着た方が心地いいものです。それを是非、実感していただきたい」

もちろんその襦袢にも岐阜シャツのコンセプトが活かされています。

和紙布、展示会で高評価

そして満を持して出展した展示会「feel NIPPON春2017」(東京)には、主役の夏着物・角帯・襦袢、作務衣など8点を映像(製作ストーリー)※とともに出品しました。

なかでも注目度が高かったのは夏着物用インナー「襦袢」でした。既存の襦袢にはないデザイン性もさることながら、バイヤーの視線はその生地に施された岐阜シャツのコンセプト「和紙糸」ならではの軽量・通気性・肌触りのよさに集まりました。

「うれしいことに、すぐにでも作ってほしいとの声をたくさんいただきました」

武藤さんは、今春からの全国展開での販売を目指し準備を始めました。女性用の展開も考え、藍染だけでなく好きな色に染めることも可能にするなどバリエーションも広がります。

岐阜シャツのコンセプトを活かした「ブランド展開」を岐阜中に拡げたい

先般のGSPでのフィレンツェ市表敬訪問の際、岐阜シャツのほかにこの肌着のサンプルを持参したところ、マントヴァーニ副市長に『この生地で下着をつくったらどうですか』と逆に提案があったほど、興味をもたれたそうです。武藤さんは、そんな岐阜シャツのコンセプトを活かした発想や提案はまだまだ生まれるのではないかと考えます。

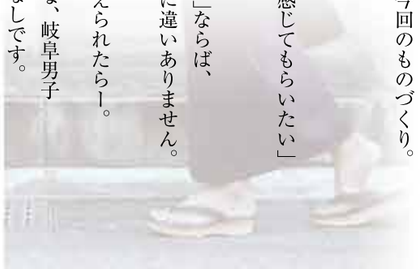
「可能性はたくさんあると思います。今回のわが社の商品づくりを参考に、メンズ、レディース、繊維業界に限らず『うちならこんなことが出来るんじゃないか』などと『岐阜シャツのコンセプトを活かしたブランドの展開』に参加してほしいと思っています。そんな企業を第2弾、第3弾と増やしていくのもGSPの今後目指す姿かと思います」

それは例えば「岐阜シャツ」の「岐阜」でつくられていることだけにこだわるなど、関わり方はそれぞれの解釈でいいのではないかと武藤さんは語ります。

・・・・・・・・・・・

「私たちは日本人ですから、和装のよさ、本当はわかっているはず。触れて、着て、もっと知ってほしいです」

そんな「日本ならでは」の和装に、岐阜シャツで開発された技術が加わった今回のものづくり。



武藤さんは、
「手に取った方に、
まずは『心地いい』と感じてもらいたい」
と、思ったそう。
自分が着て「心地いい」ならば、
それは「かっこいい」に違いありません。
そんな楽しみを、
この和装を通じて伝えられたらー。
ちょいと粋でイナセな、岐阜男子
増えること、間違いなしです。

柏屋商事㈱
代表取締役社長
武藤昭成さん